

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年2月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800178
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県出水市汐見町89番地 (電話) 0996-67-5626
自己評価作成日	令和6年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
---------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、恵まれた自然環境の中で、広々とした施設が特徴です。毎年10月中旬ごろから出水平野の水田地帯に飛来するツルの鳴き声で季節を感じます。利用者様が自分らしく健康で安心して過ごしていただけるように日々利用者様に寄り添い笑みを絶やさないように職員一同心掛け、また、職員一人一人が入居者様と生活を共にしていることを意識して居心地よい温かい生活、安心・安全な生活が送れるように努めています。ご家族様や知人、地域の方々が訪れやすい施設を目指しており毎日歌を歌ったり、体操、口腔体操を行い体調作りを支援しています。職場環境においても、研修の充実、労働時間など働きがいのある職場づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所周辺は、広々とした田園地帯が広がり、出水平野に飛来する鶴の姿があちこちに見られ、のどかな風景が広がっている。
- ・同敷地内に、法人の関連する施設が数多くあり、関連施設間の協力体制がある。母体の医療機関とは24時間医療連携体制が取れており、必要時に看護師の協力も得られている。
- ・職員は利用者の一人ひとりの特性に配慮し、利用者が安心して過ごせるように細やかな配慮をしている。
- ・管理者は職員の相談に気軽に応じ、意見や要望についても傾聴し、職員からの信頼も厚い。職員間の連携もよい。
- ・職員の質の向上に力を入れており、資格取得のための勤務調整にも協力的である。現在の職員も有資格者が多く、勤続年数の長い職員も多く働いている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和し職員同士共有している。理念は「さりげない見守り」「家庭的な雰囲気づくり」「その人らしさを大切にケアします」としている。	事業所独自の理念を各ユニットや玄関口に掲示している。重要事項説明書にも記載している。毎日の申し送り時に唱和し、毎月の会議で振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で開催されるイベントは、新型コロナウイルス感染防止の為見送られていたが今回敬老祝賀会が催され参加された。	法人の関連施設が近隣に集中しているため、特性を活かし協力している。以前はコロナ禍で自粛していた敬老会祝賀会を開催し参加して楽しんだ。実習生の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議でご利用者様の暮らしぶり等を話をし、認知症の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行われている。事業所の近況・行事・事故・ヒヤリハット・ご家族からの要望等の取り組みなどの報告を行っている。家族代表・地域包括支援センター・民生委員・法人理事・法人評議員が出席し意見、提案をいただきサービス向上に取り入れている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。事業所状況や活動報告・利用者状況・事故報告・ヒヤリハット等を報告し、地域包括支援センター担当者や民生委員・関係委員からの意見や提案を聞き、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	報告等を行う中で連携を図り、関係づくりに努めている。不明点や疑問点を確認し市の担当者と協力関係を築きながら取り組んでいる。	窓口に出向いて運営推進会議の議事録を持参したり、申請書を提出している。生活保護者には年1回の訪問や電話での状況報告を行っている。市主催の研修会にはオンラインや対面での参加をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化の指針を作成し、3ヶ月に1回身体拘束検討委員会を開催し、管理者に議事録で報告し、運営推進会議で報告の機会を設けている。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し話し合いをしている。勉強会や研修会を2ヶ月に1回実施している。言葉については気づいたときには職員同士で注意している。昼間は玄関の施錠はしておらず、外出希望者は、一緒に散歩をして気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや、態度等、職員同士で注意し合うように心がけている。その時のニュースや新聞記事などで検討し、話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護、並びに人権に関する施設内研修を毎年度行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には、重要事項説明書を読み上げ、料金改定時には、家族に直接説明を行い理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様、ご家族様の面会時、電話連絡した際に意見、要望を把握し、職員同士情報を共有しサービス向上に努めている。	利用者からは日々の生活の中で意見を聞いたり、入所時のアセスメントやケア記録からも把握している。家族からは年2回ひまわり通信を送付して面会時や担当者会議の時に思いを聞いている。出された意見は反映できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、法人事業所全体の職員会議や運営会議を通して意見や要望を聞いて業務改善や利用者のサービス向上に反映できるように取り組んでいる。	法人全体の職員会議やユニット毎のケア会議で意見や要望を聞いている。資格取得や研修の補助制度・勤務日程の配慮もある。職員の意見により乾燥機の購入を行った。管理者は職員からの個人的な面談にも快く応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇級、賞与等定期的に行っている。各人のスキルアップのために便宜を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務のローテーションを図りながら全職員が研修を受ける機会を得られるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水・川薩支部認知症グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加し、お互いの研鑽を重ねている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人への声掛けを多くし、その方の生活歴を聞いたりして安心してもらえるような関係を作る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活状態、心身状態を聞き取り、問題になっている事や要望を明確にした上で、ホームでどのように過ごしていきたいのかを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で利用者様、ご家族様との話し合いで、必要とする支援を確認し合い対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いに寄り添い家庭と同じように過ごしていただけるように、洗濯物たたみ等出来る事を職員と一緒にやり信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行ったり、電話連絡をしている。体調変化等は随時報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症が流行りお墓参り・ドライブ・外食の機会を設けることが出来なかった。電話や窓越し面会で関係継続の支援を行っている。	窓越しによる家族や友人・知人の面会を行っている。電話・手紙・はがき等の取次ぎや手伝いをしている。受診後に花見やドライブに出かけている。感染症の状況を見ながら、家族との受診外出や法事の参加支援等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と座る席を近くしたり、同じテーブルにする等の配慮をしている。また、レクレーションなどすべての方が関われる様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化に伴いグループホームから医療機関、併設特養に入所された人がいる。職員と本人、家族のなじみの関係は今も続いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や生活状況、利用者様の希望・意向を聞き把握するように努めている。困難な場合は日常の変更やご家族と連絡を取り、利用者様にあった支援に努める。	日々の会話の中で、やりたいことや食べたい物等を聞いている。困難な場合は表情や仕草等で、難聴の人は文字やジェスチャー等で思いを把握し、職員間で情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にキーパーソンとなる家族から生活歴を伺うこと以外に、ホームで暮らしている中で知り得た本人の暮らしの一端を記録に残し、職員全員で共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、バイタル測定の状況を把握して、健全な1日を送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族様の意向をお伺いし職員、計画作成担当者とのモニタリングを行い、利用者様の状況に合った介護計画を作成している。	本人や家族の意見を聞き、主治医の意見を基に担当職員が中心となって介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に、見直しは6ヶ月毎に実施し、状況変化時はその都度見直しをして、現状に合った本人本位の介護計画になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子・健康状態・ケアの実施を個別記録に記入し職員同士で申し送り、ミーティングで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の希望で外出、訪問診察、散歩など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練に消防署の立合いを求め指導を仰いだり共同の訓練を行っている。また、家族の面会の時間をつくり楽しみのある日々になるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は母体の医療機関が主治医である。通院は職員が同伴し、受診前後には家族に連絡を行なっている。往診は毎月2回受けている。緊急時の医療連携も構築されている。	母体の医療機関がかかりつけ医である。往診は毎月2回、緊急時の訪問もある。定期の受診は年2回職員が同行している。他科受診は職員か家族が同行し、歯科は往診になっている。24時間医療連携体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師などによく相談し、健康管理に努めている。また、併設施設の看護師と24時間連絡体制を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、疾患の状態が長期の入院加療を要するもの以外は病院関係者と密に連携して早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、利用開始時に説明して同意を得ている。状態変化時の対応も主治医の指示の下に行う事を家族にも説明を行っている。	入所時に看取りについて説明し、同意書を貰っている。状態の変化時に主治医が家族へ説明し本人・家族の希望する方向性を確認している。家族が医療機関を希望する事が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故のマニュアルを備えて発生時に備えている。定期的に急変時、事故発生時、火災発生を想定した訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立合いで、火災・地震水害を想定した法人全体の避難訓練を実施している。災害時は隣接の特養からの協力体制が確立されている。消防設備点検は業者に委託している。施設内に備蓄品は水・米・レトルト食品・介護用品等がある。	年2回消防署の立ち合いのもと昼夜を想定して火災・地震・水害避難訓練を実施している。各ユニット毎に自主訓練を年1回実施している。米・水・缶詰・インスタント食品や介護用品等を3・4日分を施設内で備蓄している。法人全体の避難訓練時は津波の避難訓練も実施し、他施設の協力体制もできている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を重視し言葉使いなど気を付けている。ケアする場合は居室で行い、プライバシーを保つようにしている。	接遇等についての研修会を年2回、2ヶ月毎に勉強会を実施している。特に言葉について注意し、排泄時や入浴時の声掛けは羞恥心に配慮して行っている。申し送りは番号で行い、支援の際の名前はさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いに寄り添えるように、傾聴し自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われる事が多い中で、利用者との共同作業を通じて共に歩むケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自分でできる身だしなみはして頂いている。衣類等に関しては、清潔な身だしなみができる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、食事形態を把握して職員が作成した献立表で調理している。食材の購入も職員が行っている。食材の下ごしらえや下膳等は利用者様と一緒にしている。	献立は職員が作成し同法人の栄養士よりアドバイスを受けている。買い物は職員が実施。食事形態にも配慮している。誕生日は好きなものを聞いている。行事食も工夫し、おやつでケーキや和菓子を出す等、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量のチェック水分摂取の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後働きかけを行い口腔ケアを行っている。出来る方は見守り、出来ない方は洗面所まで誘導し促しや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ指導の他、本人の訴えの際は、介助を行なっている。	排泄チェック表があり、個々の排泄パターンを把握している。時間毎にトイレを促したり声かけを行っている。トイレ誘導を繰り返すことで、排泄用品の減少や布パンツ使用の維持ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を毎日チェックしている。おやつに牛乳・ヨーグルトなど提供している。困難な場合はかかりつけ医に相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週3回入浴日を決めている。体調不良、入浴拒否の場合は後日に変更して対応支援している。	入浴は週3回午前中に実施している。湯温等は本人の希望に合わせている。入浴剤を使用したり、年末にはゆず湯も行っている。入浴拒否者は声かけ職員を交代したり、タイミングを見て対応している。シャワー浴や清拭・足浴等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその日の体調、気分に合わせて居室などで休息していただいている。また、気持ちよく休まれるように天気の良い日は寝具を干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬情を読み、変更の際は申し送りを行い情報を共有している。誤薬、飲み忘れがないようにダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存能力を生かしながら、洗濯物干し、畳み、新聞紙折りなど行っている。レクレーションでは、壁画作成・カラオケ・散歩などで気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段から散歩、洗濯物干し、日向ぼっこなどして戸外に出られている。	広い庭で散歩をしたり、季節の花が咲く頃はお茶会をして外気浴を楽しんでいる。年間計画を作成しており、今後は計画にそって外出支援できるよう検討している。医療機関受診後に花見や海を眺めてドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りは自由に行っている。また本人が出来ない場合は職員が手伝っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の食堂と談話室の壁には利用者が作成した季節感のある作品を飾っている。利用者が居心地良く過ごせるように座席の配慮をしている。	リビングは天井が高く明るい。空気清浄機や加湿器があり、エアコンで温度・湿度の調整をしている。中庭があり窓も多いので風と光が入ってくる。利用者が作成した塗り絵や折り紙、習字等を掲示し、季節の花が飾られている。座席の工夫をして転倒防止を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し利用者様同士会話を楽しんだり、体操ができるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際、利用者様の使用していた物を持ち込みいただいている。ご家族様が撮られた写真を居室に飾りつけ、安心して過ごしていただけるように配慮している。	エアコン・ベッド・洗面台・床頭台・時計・押し入れ等の設置がある。寝具はホームで用意しているが、持ち込みも可能である。家族写真・小物・時計等が飾られている。窓から外が眺められて、清潔な明るい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手すりが設置されており、共同のトイレの入り口にトイレマーク、廊下にもトイレの場所を示す張り紙をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない